

第19回 年次大会 特別講演会

「災害に強い環境インフラをめざして」

阪神淡路大震災を皮切りに、新潟県中越地震、東日本大震災、さらに昨年に発生した大阪府北部地震や西日本豪雨等、平成の時代はさまざまな自然災害が発生し、環境インフラは大きなダメージを受けてきた。しかし、災害時の環境インフラの状況は報道機関などに取り上げられることが少なく、その被災状況と復興過程や、災害に対応した課題などは余り明らかにされていない。

そこで本講演会では、平成の時代に発生した様々な自然災害から、その都度、復興を遂げてきた環境インフラの現状について、上水道、下水道、廃棄物の各分野から講演をお願いする。あわせて、上水道と下水道と廃棄物処理の上手な連携を視野に入れて、『災害に強い環境インフラ』のあるべき姿について討論する。

日時：2019年6月29日(土) 13時30分～16時30分(受付 13時00分～)

会場：龍谷大学 深草キャンパス22号館 1階 102教室(京都市伏見区深草塚本町67)

プログラム

13時30分～13時35分 開会挨拶 入澤 崇(龍谷大学学長)

13時35分～14時15分 講演(1)平成の時代における水道の地震対策と残された課題

鋤田泰子(神戸大学大学院工学研究科)

14時15分～14時55分 講演(2)下水道施設の被害と復旧の実例 中筋康之(日本下水道事業団)

14時55分～15時35分 講演(3)災害発生時の廃棄物処理システムの実態と課題

高田光康(株式会社東和テクノロジー)

15時35分～15時50分 休憩

15時50分～16時30分 総合討論 コーディネーター：奥田哲士(龍谷大学理工学部)

後援：日本水環境学会関西支部、廃棄物資源循環学会関西支部(申請中)



鋤田 泰子

所属：神戸大学大学院工学研究科

市民工学専攻

専門・従事分野：地震工学



中筋 康之

所属：日本下水道事業団

西日本設計センター

専門・従事分野：災害時の危機管理



高田 光康

所属：株式会社東和テクノロジー

環境ソリューション事業部

専門・従事分野：災害廃棄物



奥田 哲士

所属：龍谷大学理工学部

環境ソリューション工学科

専門・従事分野：環境工学

■参加費用：一般 2,000円、環境技術学会員・後援学会員 1,000円

※環境技術学会員の方は、是非、年次大会にご参加下さい。

■参加申し込み方法：〆切は6月20日(木)中です。

学会ホームページの申し込み専用ページからお申し込みください。

本申し込みのお支払い方法は、クレジットカードまたは当日支払いとなります。

※大会当日も受付いたします。※年次大会に参加される方は、申し込みは不要です。

■問い合わせ先：環境技術学会大会委員会(担当：広谷) E-mail: taikai_info@jriet.net



参加申込ページ

特別講演会「災害に強い環境インフラをめざして」 —講演概要—

講演(1) 平成の時代における水道の地震対策と残された課題

鍬田泰子(神戸大学大学院工学研究科 市民工学専攻)

1995年の阪神・淡路大震災における水道施設の被害を教訓にして、水道の耐震設計指針の改訂や、地震後の他事業体への災害応援に関する手引きの取りまとめなど、水道事業体では事前・事後の地震対策が積極的に進められてきた。また、離脱防止機能がついた耐震継手のある管路の開発も行われてきた。その一方で、施設・管路の耐震化の遅れや、更新が進まず施設・管路の経年化や水道技術者の不足などの課題も多い。平成の時代における水道施設の地震被害を振り返りながら、新たな時代に向けた災害に強い水道について述べる。

講演(2) 下水道施設の被害と復旧の実例

中筋康之(日本下水道事業団 西日本設計センター)

これまで、地震、豪雨等により下水道施設はたびたび甚大な被害を受けてきたが、阪神・淡路大震災、東海豪雨、東日本大震災など、とりわけ大きな被害が発生した際には、復旧支援の枠組み・制度、設計基準等が見直され、より災害に強い下水道を目指し取り組んできた歴史がある。ここでは、主な自然災害による下水道施設の被害状況や復旧について、その実例を紹介する。

講演(3) 災害発生時の廃棄物処理システムの実態と課題

高田光康(株式会社東和テクノロジー 環境ソリューション事業部)

現代社会において市民の生活環境の保全に欠くことのできない廃棄物処理システムは、自然災害が発生したときのような影響を受け、その結果何が起こるのか、近年の災害事例をもとにその実態を解説する。そこで明らかになった課題と得られた教訓を踏まえ、廃棄物処理システムのさらなる災害対応力強化のためにはどのような取り組みが必要なのか、行政、民間事業者、市民それぞれの果たすべき役割に着目し考える。

講演者略歴

鍬田泰子

神戸大学工学部建設学科卒業、神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程建設学専攻修了、神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程地球環境科学専攻修了

2004年:神戸大学工学部 助手, 2006年:神戸大学工学部 助教授, 2007年~神戸大学大学院工学研究科 准教授

中筋康之

東北大学工学部土木工学科卒業 専攻:汚水中の難分解性物質の分解特性

1993年:日本下水道事業団採用 下水道施設の設計, 工事監理を担当, 2002年:国交省国土技術政策総合研究所派遣<研究テーマ>下水道工事積算体系の研究, 2005年:日本下水道事業団 復旧(技術開発部)<研究テーマ>下水中のウイルスに効果的な消毒技術, 活性汚泥モデル, 2014年:堺市上下水道局派遣, 2016年:日本下水道事業団復旧(事業統括部事業課長)災害等の危機管理, 入札・契約制度を担当, 2019年~現職

高田光康

関西学院大学理学部化学科卒, 大阪工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了(工学博士), 技術士(衛生工学部門)

1982年:神戸市採用(技術職員)環境局, 下水道局において環境対策, 施設維持管理等を担当, 1995年の阪神淡路大震災時当時, 環境局係長として災害廃棄物処理を経験, 1997年:廃棄物研究財団(当時)勤務, 2007年:大阪湾広域臨海環境整備センター(フェニックス)勤務, 2012年:国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 研究調整主幹, 東日本大震災の災害廃棄物対応を担当し3年間福島市に常駐勤務, 2015年~国立環境研究所 客員研究員, 廃棄物・3R研究財団 研究参与, (株)東和テクノロジー 環境ソリューション事業部長